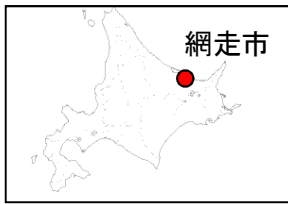


# 網走市地域公共交通活性化協議会

平成22年3月16日設置



## 概要

網走市は、北海道東部に位置し、人口34,919人(2020年2月末現在)、総面積471km<sup>2</sup>、丘陵地が多く、市街地は網走川河口付近とその南側に続く丘上の平地にある。基幹産業は、農業と水産業で、観光では地域資源を活用した自然体験型観光コンテンツの開発にも取り組んでいるが、地域公共交通を取り巻く環境は、人口減少や少子高齢化、自家用車の普及などに伴う利用減少や、慢性的な人手不足による運転手の高齢化、新型コロナウイルス感染症の影響など、厳しい状況となっている。

### ○地域公共交通の現況

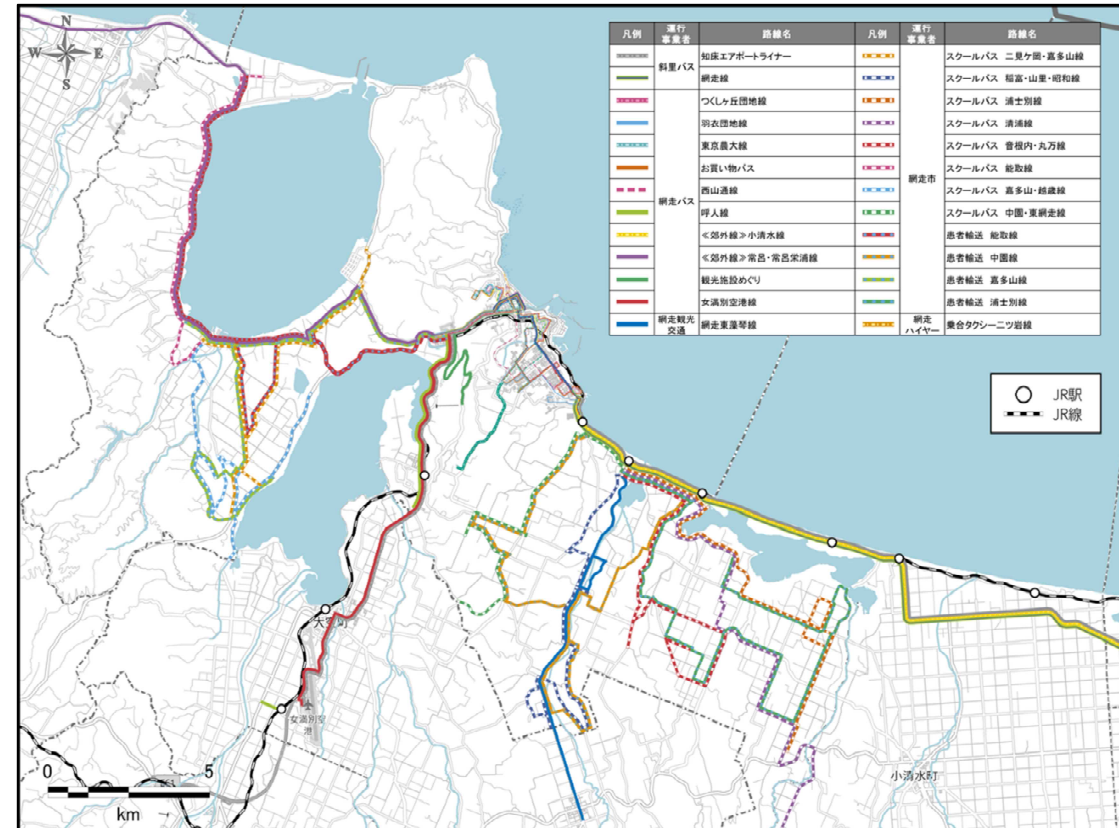
- ・JR石北本線(網走駅、呼人駅)
- ・JR釧網本線(網走駅、桂台駅、鱒浦駅、藻琴駅、北浜駅)
- ・網走バス(株)(市内線6路線、郊外線3路線)
- ・網走観光交通バス(株)(郊外線1路線)
- ・スクールバス(8路線)、患者送迎バス(5路線)

### ○地域公共交通の課題

- ・利用の減少
- ・効率的・効果的な公共交通
- ・観光利用
- ・人材の確保
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大

### ○調査の主な内容

- ・公共交通実態把握(乗降調査)
- ・地域住民のニーズ把握(アンケート調査、意見交換会)
- ・オンデマンドバス実証実験



鉄道と路線網図(A3版別添)

### ○地域公共交通活性化協議会開催状況(令和2年度)

4月24日 協議会(地域公共交通計画策定業務、デマンドバス実証実験)

12月18日 協議会(計画素案の検討)

6月26日 協議会(計画策定の予算、スケジュール、デマンドバス実証実験)

1月21日 協議会(計画案の承認)

# 網走市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

## ●事業の結果概要

### 【事業内容】

- ・公共交通実態把握 ・市民アンケート調査
- ・大学生・高校生アンケート調査 ・郊外線乗降調査
- ・地域住民との意見交換会
- ・オンデマンドバス実証実験の効果検証
- ・地域公共交通計画案とりまとめ ・協議会開催
- ・網走市地域公共交通計画案の作成

### 【結果概要】

#### 1. 市民アンケート調査

- (1) 対象 市街地に住む13歳以上の方から無作為に抽出
- (2) 実施日 令和元年10月4日(金)
- (3) 配布・回収数 2,000票配布、841票回収(42.1%)
- (4) 調査項目

個人属性(免許と車の保有状況、車の運転意向、運転が困難となった場合の移動手段、外出頻度、公共交通利用頻度)日頃の交通手段(買い物・病院・私用の頻度、時間帯、行き先、移動手段)、路線バスについて(路線や停留所、サービス、満足度)、今後のバス交通について(路線、運賃)

#### (5) 結果

- ・バスやタクシーを「めったに利用しない」と回答  
バス 82.5%、タクシー 80.5%
- ・自動車の運転が困難になった場合の移動手段  
「バスを利用する」50.4%、「タクシーを利用する」20.8%
- ・利用の少ない路線の廃止  
「困る」5割、「仕方がない」が4割
- ・バスの小型化  
「仕方がない」が9割以上
- ・予約制の導入  
「良い」約4割、「困る」約3割、「わからない」約3割

#### 2. 大学生・高校生アンケート調査

(1) 対象 市内の高校及び大学へ通う学生

(2) 実施日及び調査方法、回収票数

大学生 令和2年10月14日 Web調査 対象1,539人 回答88人

(東京農業大学生物産業学部 学生専用ポータルで周知)

高校生 令和2年11月4日 回答60人

(網走桂陽高校商業科3年生の協力により実施)

(3) 調査項目

個人属性(免許と車の保有状況、通学手段)

公共交通に関する取組(デマンド型交通、キャッシュレス決済、MaaSなど)への意見

(4) 結果

・通学時の交通手段

「バス」が最も多く、大学生 約4割、高校生 約5割

・デマンド型交通を「導入すべき」及び「やや導入すべき」

大学生 約6割、高校生 約8割

・キャッシュレス決済を「導入すべき」及び「やや導入すべき」

大学生 約9割、高校生 約9割

MaaSを「導入すべき」及び「やや導入すべき」

大学生 約9割、高校生 約8割

①および②の詳細は、「網走市地域公共交通計画案」を参照

# 網走市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

## ●事業の結果概要

### 3. 郊外線乗降調査

- (1) 対象 郊外地域を運行する6路線に乗車した330人  
(小清水線、呼人線、常呂線、東藻琴線、網走線)
- (2) 実施日 令和2年10月14日(水)
- (3) 調査方法 対象路線のバスに調査員が乗車し、利用者に対しヒアリング調査を実施
- (4) 調査項目  
乗降停留所、利用目的、普段の移動手段、利用頻度、乗継状況、バスの予約制について、公共交通の維持のための提案、要望等
- (5) 結果
  - ・利用目的  
「通学」 69.7%
  - ・普段の移動手段  
「バス」 80.7%
  - ・時間帯別の利用状況  
通学以外の時間帯については利用の少ない状況
  - ・公共交通の維持のための提案については  
「バスの便数を減らしてでも維持」 36.9%  
「もっときめ細かく運行」 34.1%
  - ・要望  
「運賃を安くして欲しい」 34.3%  
「運行時間帯を変更して欲しい」 32.0%

詳細は、「[網走市地域公共交通計画案](#)」を参照

### 4. 地域住民との意見交換会

地域住民の公共交通にかかるニーズを把握するため、意見交換会を実施した。

平成31年度は郊外地区等で6会場で開催し68人の参加、令和2年度はオンデマンドバス説明会に合わせて意見交換を18会場で開催し、295人の参加があった。

(寄せられたご意見要旨)

- ・バス停まで歩くのが大変。
- ・患者送迎バスは時間帯が合わない。
- ・患者バスの便数を増やし、家の前まで来てもらいたい。
- ・隣近所で自家用車に乗り合い、事故に遭っては問題。
- ・老人はドアtoドアでなければバスを利用しないと思われる。
- ・郊外に住んでいると免許を返納したくてもできないのが現状。
- ・利用者が減って、減便して、さらに利用しづらくなっている。
- ・利用者が少ないならバスの小型化も良いと思う。
- ・高齢で運転している人は多い。何らかの対策が必要。
- ・家の前まで来てくれるワゴン車があると良い。
- ・スクールバスは路線の近くに住んでいないと利用できない。
- ・運転手さんが一人で乗っているのは気の毒に思う。
- ・バス利用者減少は料金が原因と思う。高齢者割引の充実を望む。
- ・路線バスのステップが高く、乗降の際辛い。
- ・日中は利用者が少なく、運転手さんが気の毒。
- ・利用者が少なく、バス事業者の経営が心配。

今後のさらなる利用減少を踏まえ、地域公共交通の維持、最適化を図る必要性を認識。

# 網走市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

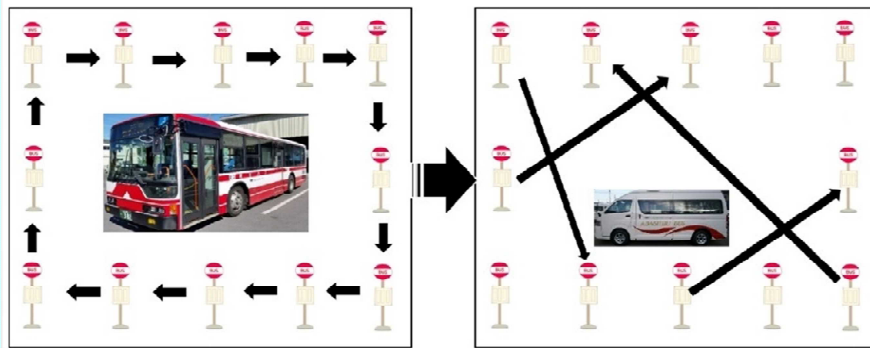
## ●事業の結果概要

### 5. オンデマンドバス実証実験

持続可能な公共交通の構築を目指し、オンデマンドバス「どこバス」を特定エリア内で運行する実証実験に取り組んだもの。

「どこバス」は、利用者の予約に応じ、最適な乗り合わせや運行経路をAIが判断し配車指示を行うシステムを活用しており、車両は小回りの利くワゴン車であることから、路線バスと比べ効率的な移動が可能である。

#### (1) 路線バスと「どこバス」の比較イメージ



#### (2) 実験概要

- ・ 期間、時間 令和2年8月1日から11月30日まで  
午前10時から午後4時まで
- ・ 停留所 既設84箇所、新設30箇所、計114箇所
- ・ 運賃 1回乗車につき300円、1カ月定期3,000円
- ・ 予約方法 スマホアプリまたは電話



#### (3) 利用状況

	8月	9月	10月	11月	計
乗車人数(人)	156	223	282	298	959
1日平均(人)	5.03	7.43	9.10	9.93	7.86

#### (4) 利用者の声

利用者に対し電話アンケートを実施 (61人)

- ・ 「路線バス」より「どこバス」が便利と回答 85.2%
- ・ 改善してほしいこと
  - 1位 運行エリアの拡大 44.1%
  - 2位 運行時間の拡大 29.0%
  - 3位 予約を簡単に 7.5%
  - 4位 料金を安く 6.5%



#### (5) 今後について

次年度は、運行エリアや運行期間及び時間の拡大、車両台数を増やすなど、規模を拡大しての実証実験に取り組み、利用の拡大と定着を図る。

# 網走市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

## ●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

### 【計画の概要】

1. 対象区域 網走市内全域
2. 計画期間 令和3年度から令和7年度
3. 基本理念 『みんなで創る地域公共交通の未来』

#### <基本理念の考え方>

人口減少、少子高齢化の進展、新型コロナウイルスの感染拡大など、これまでに誰も経験したことのない大変厳しい時代を迎えています。

「今は必要ないが、無くなると困る。」では公共交通は維持できません。

交通事業者や行政のみならず、企業、団体、市民といった地域全体が、公共交通の課題や重要性を認識したうえで、それぞれが今できる行動に取り組みながら、ともに地域公共交通について考え、支え、未来を創出していくことが必要です。

4. 基本方針
  - 1 地域にとって最適な公共交通の推進
  - 2 便利で快適な公共交通の推進
  - 3 観光利用の推進
  - 4 公共交通の担い手の確保
  - 5 地域が支える公共交通の推進
5. 基本方針に基づく事業
  - (1) 基本方針1
    - ①JR北海道の維持、存続問題への対応
    - ②効率的・効果的な路線バスとタクシーの検討
    - ③交通空白地の解消と手法の検討 他
  - (2) 基本方針2
    - ①「どこバス」(オンデマンドバス)実証実験
    - ②キャッシュレス決済の導入拡大とPR 他

- (3) 基本方針3
    - ①観光客の誘客と公共交通の利用促進
    - ②案内の多言語化などインバウンド対策の推進 他
  - (4) 基本方針4
    - ①運転手の自社養成の推進
    - ②女性運転手の雇用促進 他
  - (5) 基本方針5
    - ①モビリティ・マネジメントの推進
    - ②公共交通を考える機会の創出 他
6. 計画の目標  
5つの基本方針に沿った目標をそれぞれ設定し、各事業の取り組みを進め、その進捗状況や達成度を測ります。
    - (1) 基本方針1
      - ①路線バスの利用者数、②路線バスの満足度
      - ③網走駅の乗車人員 他
    - (2) 基本方針2
      - ①「どこバス」の導入を検討 他
    - (3) 基本方針3
      - ①観光客数(市内宿泊客数)
      - ②着地型観光交通の利用者数
    - (4) 基本方針4
      - ①バス・タクシー運転手の自社養成者数
      - ②インターンシップなどの受入者数
    - (5) 基本方針5
      - ①公共交通を考える授業や汽車遠足などで公共交通を利用した人数
      - ②公共交通に関するイベントでの参加人数

詳細は、「[網走市地域公共交通計画案概要版](#)」を参照

# 網走市地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

## ●事業実施の適切性

計画に基づき、適切に実施された。

## ●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・事業は、計画どおり適切に実施されているものとする。
- ・ICTを使ったオンデマンドバスの本格運行に期待する。
- ・今後、公共交通事業の収支率や公的資金投入額など事業効率の改善等についても検証していくことをご検討いただきたい。